P-0806-1

ふれあいの赤いエプロンプロジェクトの活動内容と効果：事例報告

黒田藍[1,2]　木下ゆり[2,3]　久地井寿哉[2]　伊東尚美[2,4]　佐藤香菜子[2,5]
石井なつみ[2,6]　伊藤常久[2,7]　福田吉治[1,2]

1 帝京大学大学院公衆衛生学研究科　2 ふれあいの赤いエプロンプロジェクト評価チーム　3東北生活文化大学短期大学部
4 福島県立医科大学医学部　5 中京学院大学短期大学部　6 医療法人かしの木内科クリニック　7 東北生活文化大学

日本公衆衛生学会COI開示　：　演題発表に関連し、開示すべきCOI関係にある企業等は下記のとおり。
受託研究：公益財団法人味の素ファンデーション

背景・目的

公益財団法人　味の素ファンデーション(The Ajinomoto Foundation　：　TAF)は、
東日本大震災後、東北3県で復興応援事業「**ふれあいの赤いエプロンプロジェクト**」を実施。

事業目的	①被災者の食生活と栄養状態の改善 ②災害で破壊された地域コミュニティの再生・活性化への貢献を通じた復興応援
事業内容	各地域のパートナー団体(行政、社会福祉協議会、自治会等)と連携した取組 アウトリーチ型「料理教室」
テーマ	いっしょに作って、いっしょに食べよう

＜活動実績＞　開催回数：延**3,771**回　／　参加者数：延**54,434**名

食をテーマにした8年半にわたる被災地支援の活動として他に類のない活動。

【参考】
連携をしたパートナー団体
全**235**団体

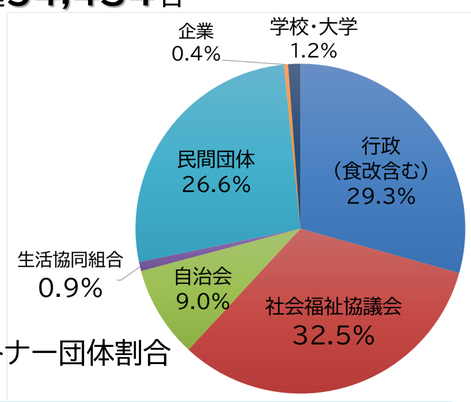
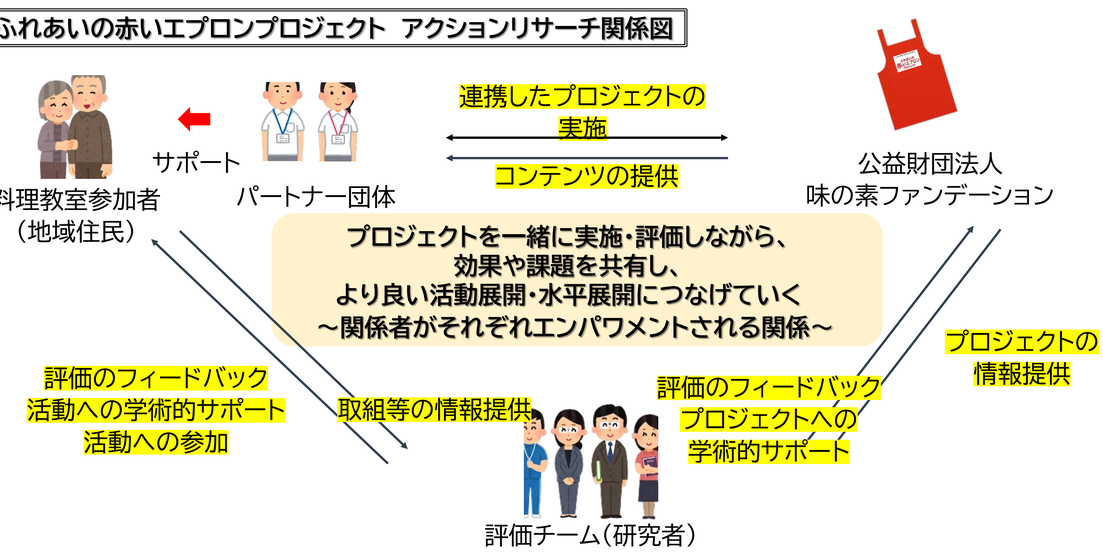


図1：パートナー団体割合

本報告では、赤いエプロンプロジェクトの活動内容と効果を報告する。

また、本報告は参加者・パートナー団体・味の素ファンデーション・評価チームで一緒に実施・評価しながら、効果や課題を共有し、より良い活動展開、さらには他の地域への水平展開につなげることを目的としていることから、**アクションリサーチ**の一環として実施した。

ふれあいの赤いエプロンプロジェクト　アクションリサーチ関係図



方法

(1) TAFの活動記録(2012年4月～2020年3月)からパートナー団体の種別を集計
(2) 上記のうちTAFとパートナー団体への聞き取りを実施した団体のうち、自主的な活動に移行した、または移行予定の条件として理論的にサンプリング
(3) 抽出された13団体について、活動経緯・役割分担・効果を分析

【分析に用いた資料】

①2012年4月～2020年3月までのTAFの活動記録
②パートナー団体へのアンケート
③パートナー団体へのインタビュー内容(参考)
④公的機関が開示している資料(参考)

倫理的配慮

TAFとパートナー団体への聞き取り、及びアンケートは、2019年～2021年に帝京大学がTAFからの委託を受けてプロジェクト評価の一環として実施した。データの二次利用については、東北生活文化大学・東北生活文化大学短期大学部研究倫理委員会の承認を得た。

結果

(1)団体の種別について　(表1・表2・表3)

表1　13団体の種別

団体の種別	団体数
自治体	1
社会福祉協議会	3
食生活改善推進員協議会	4
NPO法人	1
生活協同組合	1
自治会	3

表2　13団体の所在県

団体の所在県	団体数
岩手県	4
宮城県	4
福島県	5

(2)活動目的　(表3)

東日本大震災後、津波や原発事故により
住民※1が避難所・仮設住宅へ避難
※1　住民には各団体の当事者も含まれる

地域の課題

①避難生活による**孤立化**　※特に男性
②仮設住宅での**不十分な調理環境**
③**食への意識の低下**

活動目的

- 新たなコミュニティの再生
- 住民同士のつながりづくり
- 男性の孤立予防
- 食生活の改善

調理器具やレシピの提供など
TAFによる**環境的支援**

(3) パートナー団体とTAFの役割分担　(表3)

パートナー団体	TAF
場所の確保・参加者の募集	食材の確保・レシピの提供 調理器具の提供・衛生管理

◆　役割については、上記に限らずパートナー団体とTAFの話し合いを行い、**パートナー団体の特性に合わせて対応**していた。
例)　郷土料理をレシピに取り入れる・パートナー団体が講師を実施するなど

(4)活動場所・活動内容　(表3)

◆ 活動場所　：　仮設住宅・復興住宅・公民館等　➡　避難や復興の状況に合わせて変化
◆ 活動内容　：　被災者(特に高齢者)を対象にした料理教室
※　13団体中、5団体は男性のみを対象に料理教室を開催した。

(5)効果　(表3)

実施後の効果として以下の5つが共通して抽出され、各団体の活動目的を達成していた。

- 参加者の心身の回復
- 社会参加の機会の創出
- 食への意識の変化
- コミュニティの構築・再生(コミュニティレジリエンス)
- パートナー団体の活動の活性化

考察

活動は被災地域の栄養改善、及び被災地復興支援を主たる目的に実施され、活動を通じて、以下の3点について影響を与えたことが推察された。

◆ **社会的ネットワークの強化**
◆ **被災後の不十分な環境下での活動におけるインフラの改善**
◆ **地域のリソースや能力を強化・見える化**

結論

◆ 本プロジェクトは多様なパートナー団体と協働して実施し、各団体から共通する効果が得られるとともに、個人だけでなくコミュニティ全体の回復につながった。
◆ 得られた効果はフレイル予防や通いの場の創出においても重要な要素でもあり、被災地外での地域活動としても展開していくことが期待される。

表3　13団体のまとめ

県名	団体名	運営主体	活動目的(開始当初)					活動の背景						活動頻度・期間		活動場所	活動内容	パートナーの役割							TAFの役割					活動の効果					
			住民同士のつながり	男性の孤立予防	新たなコミュニティの形成・再生	食生活の改善	食改活動の推進	孤立化	避難先でのコミュニティ再生	震災後のストレス	食生活の課題	調理環境の課題	食改活動の体制構築	活動頻度	実施期間			場所の確保	チラシの作成	参加者への呼びかけ	機材の準備	食材の準備	レシピ	教室の講師	食材の準備	機材の提供	レシピの提供	教室の講師	衛生管理	コミュニティの構築・再生	社会参加の機会の創出	食への意識の変化	パートナー団体の活動の活性化	参加者の心身の回復	被災者と地元住民の交流
岩手県	山田町社会福祉協議会	社会福祉協議会	○	◎		○		◎			○	○		月1～2回	2012年4月～2020年2月	仮設住宅の集会所→コミュニティセンター等	男の料理教室の開催	○	○	○					○	○	○	○	○	○	◎	○	○	◎	
宮城県	東松島市社会福祉協議会	社会福祉協議会	○	◎	○	○		○	○	◎	◎	○		市内各所で月1～4回	2014年9月～2020年2月	仮設住宅→公営住宅→地区センター	被災者を対象とした料理教室の開催	○	○	○					○	○	○	○	○	◎	○	○	○	◎	
福島県	富岡町社会福祉協議会	社会福祉協議会	◎	○	◎	◎			○	◎	○	◎		各地で月2～4回程度	2012年5月～2020年2月	仮設住宅→おたがいさまセンター→サロン(集会所・公民館)＊避難先の新潟や東京でも開催	被災者を対象とした料理教室の開催 男の料理教室の開催	○	○	○					○	○	○	○	○	○	○	◎	○	◎	
岩手県	陸前高田市食生活改善推進員協議会	食生活改善推進員協議会 自治体	○			◎	○				◎	○	◎	月1回程度	2013年4月～2020年2月	仮設住宅・公民館→コミュニティセンター	被災者を対象とした料理教室の開催	○	○	○					○	○	○	○	○	○	○	◎	○	○	○
宮城県	南三陸町食生活改善推進員協議会	食生活改善推進員協議会 自治体	○			◎	◎				◎	◎	○	各仮設住宅で年1回程度	2012年6月～2018年9月	仮設住宅の集会所→公営住宅	被災者を対象とした料理教室の開催	○	○	○		○		○		○	○		○	○	○	○	○	◎	◎	
宮城県	亘理町食生活改善推進員協議会	食生活改善推進員協議会 自治体・大学	○		○	◎	◎				◎	○	◎	各仮設住宅や交流センターで年2～4回程度	2012年4月～2018年2月	仮設住宅→交流センター	被災者を対象とした料理教室の開催	○	○	○	○	○	○	○		○			○	○	○	◎	◎	◎	
福島県	広野町食生活改善推進員協議会	食生活改善推進員協議会 自治体	○	◎		◎	○	○	◎		◎			月1～2回	2013年3月～2020年2月	避難先(いわき市内仮設等)→2018年以降広野町保健セター	被災者を対象とした料理教室 男の料理教室の開催	○	○	○	○	○			○	○	○	○	○	○	◎	○	◎	◎	
福島県	双葉町	自治体	◎		○			○	◎	○		○		年1～4回程度	2014年6月～2019年11月	仮設住宅・人材センター・公民館	被災者を対象とした料理教室の開催	○	○	○	○	○	○	○＊説明			○	○	○	○	◎	○	◎	○	
岩手県	いわて生活協同組合	生活協同組合	◎			○		○	◎		○			各地域で月1回程度	2016年9月～2020年2月	仮設住宅の集会所→公営住宅	被災者を対象とした料理教室の開催＊サロン・自治会等で広く開催	○	○	○					○	○	○	○	○	◎	○	○	◎	◎	
岩手県	陸前高田八起プロジェクト	NPO法人	○	◎				◎						月1回	2012年4月～2020年2月	仮設住宅→コミュニティセンター	男の料理教室の開催	○	○	○					○	○	○	○	○	○	◎	◎	○	○	
宮城県	東松島市新道町内会	自治会	○	◎		○		◎			○			2か月に1回程度	2017年6月～2020年2月	市民センター	被災者を対象とした料理教室の開催 男の料理教室の開催	○	○	○					○	○	○	○	○	◎	○	○	◎	◎	
福島県	下神白団地自治会	自治会	◎		○			◎	◎					年4回程度	2017年10月～2019年12月	復興公営団地の集会所	被災者を対象とした料理教室の開催	○	○	○					○	○	○	○	○	◎	◎	○	○	◎	○
福島県	双葉町県南双樹会	自治会	◎		○			○	◎	○				年4～10回程度	2014年3月～2020年2月	白河市産業プラザ人材育成センター(調理室)	被災者を対象とした料理教室の開催	○	○	○				○	○	○	○	○	○	◎	○	○	◎	○	